

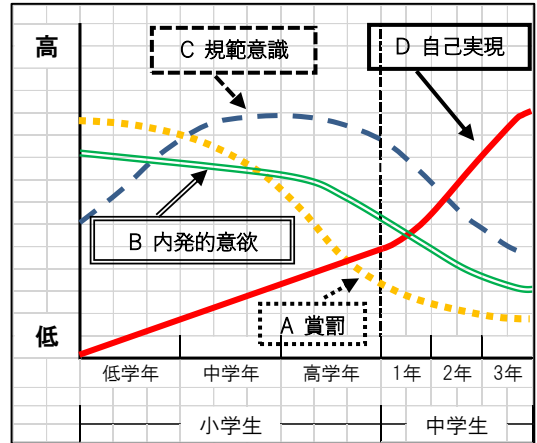
# 子供の学習意欲

校長

「まだゲームやってるの?」「宿題はないの?」「そろそろ勉強したら?」いずれも子を思う親の気持ちであるのは間違いありません。それに対して、「今、やろうと思ってたのに…」 「言われたからやる気がなくなった!」という言葉返す子供の姿も目に浮かびます。

子供の「学習意欲」はどんな要素によって支えられているのか、子供の「学習意欲」はどうしたら高まるのかについてA~Dの4つの要素を中心に考えてみます。

学習意欲の強さの変化



**A 賞罰による意欲** …ご褒美やほめられることによる意欲

小学校低学年が最も高く、学年が上がるにつれて下がっていきます。低学年は親の影響力が強く、ご褒美やほめられることは何よりも強力ながんばる動機になります。逆に思春期に入る中学生は、親から離れようとする時期です。親を絶対視する価値観から自分の価値観へと成長に伴って変化が生じます。親からのご褒美は遠慮なく受け取るとは思いますが、意欲を向上させる効果はあまりないようです。

**B 内発的な意欲** …知りたいという欲求にもとづく意欲

幼児や小学生は自分の知らない世界への関心が高く、「なぜ?」「どうして?」の問いを繰り返し、興味を引くものに夢中で取り組みます。「知りたい」という欲求にもとづく好奇心は、最も大きな学習の動機付けになります。この内発的な意欲は小学生では高いレベルを維持していますが、学習が次第に難しくなり損得など打算的な考えが身に付き始めた中学生では勢いが弱まってきます。

**C 規範意識による意欲** … 大人の期待に応えようとする意欲

小学校高学年は自我が芽生え始め、自分なりの考えをもつようになります。親への依存の割合は相変わらず高いため親の期待に応えようとがんばりますが、単純に褒美につられることはなくなります。子供のがんばりに対して結果だけにとらわれず努力の過程をほめてやりやる気を支えてやるのが大切です。親を乗り越えようとするたくらむ中学生にとって、親の期待は絶対的なものではなくなっていきます。

**D 自己実現による意欲** … 目標を実現しようという意欲

中学生になると親の期待よりも自分の考えを大切にし、自分が立てた目標を実現するためにがんばるようになります。知識が豊富になることで世の中の理解が深まり、より高度な考え方ができるようになった証です。親とは別の価値観や人格をもった人間へと成長し、自立しつつある姿だといえます。

この自分の目標を達成しようとすることから生まれる学習意欲は、中学生にとって学習の動機づけの主演であり、中学生にとって最も価値があるといえます。親にほめられたり褒美をもらったりするのがうれしくて頑張るのではなく、自分が目指すものに近づくためにがんばるようになるのです。

**心がけたいこと**

☆いつも何かしらの目標を持っている。 ☆高校や大学などの上級学校を意識している。 ☆将来なりたい職業があり夢をもっている。 ☆友人や両親と将来のことをよく話題にしている。

グラフから小学校の3~4年生は学習意欲を喚起し、勉強好きにさせる可能性が高い時期であることがわかります。賞罰がまだ効力を発揮するギリギリのときであり、親の期待に応えようという気持ちが最も強く、知りたいという知的好奇心そのまま学習意欲につながる時期だということいえます。

(参考文献 学習意欲の相対的強さの変化 新井)